

メインストリングをまたいで、もう一方のサイドの2本のストリングの間を通します。



「プライヤ」で、下に向けてきつく締めます。  
これでノットは完了です。  
「プライヤ」でストリングをつかんだまま、メインストリングを挟んでいる「ダブルストリングクランプ」を外してください、ノットが強く締まっています。  
だいたい5~6ミリ程残して余ったストリングを切ります。  
(メインストリングの先を切らずにそのまま残しておいて、クロスストリングを結び終えてからまとめても切っていただいても結構です。)  
続けて、同じ手順で、両サイドのメインストリングをノット(結び)ます。  
ワンピースストリングの場合はストリングの短い方のみをノット(結び)ます。長い方のストリングはそのままクロスストリングを張ってゆきます。

注意：ラケットにダメージから守るために、メインとクロス両方のストリングを張り終わるまで、ラケットをマシンから取り外さないでください。

また、長時間にわたりストリングを終了しないままで放置することは推奨できません。出来るだけすみやかにストリング作業を終了してください。

## クロスストリング CROSS STRING

クロスストリングを切る前に、ストリングパターン表にある”LENGTH ストリングの長さ”列で C のクロスストリングの長さを確認してください。

大半のラケットは 20 フィート (6m10cm) あれば間違いのないでしょう。(ワンピースストリングの場合はこの部分を飛ばしてください、なぜなら残った長い方のストリングを使ってクロスストリングを張ってゆけばよいからです。)

ノットを結ぶことから始めます。

ストリングパターン表を開いて“TIE C クロスの結びのホール”列最初の数字を確認してください。

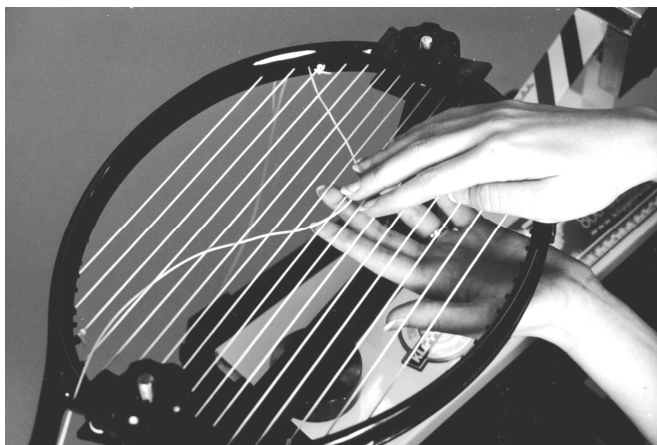
ラケットのトップの中心から数えた数字のホールに対して、フレームの外側からストリングを押し込んで差し込んでください。(数センチで結構です)

(すでにストリングが張ってあったラケットの場合は、グロメットが大きくなっているホールがあります)

そして、A-17 ページに掲載しているのと同じ要領でノットを結んでください。やがて、狭いホールにストリングの先端を通すのにだんだん慣れてきます。

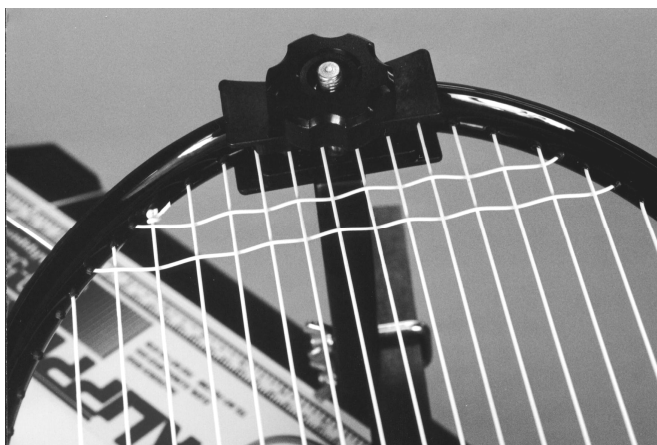


ノットが結ばれたら、ストリングパターン表にある“Start C クロスのスタートホール”列の数字の空いたホールにストリングを差し込んでください。ラケットの中心からこのホールを数えてください。



うまく縫える（波打って通せる）ように、以下の簡単なステップに従ってください。

- A. あなたに向かって縫えるように、ラケットを回転させてください。
- B. 左手をストリング面の下側に、右手を上側にして縫う作業をします。
- C. ストリングの先端で縫う作業をしてはいけません。ラケットの内側に向けて、ストリングを 30 センチ（12 インチ）位差し込んでから、ストリングの中で小さなループを作り、このループがラケットを横切って縫っていく手助けとなります。
- D. メインストリングがよりゆるい場所を選んで長く縫いましょう。

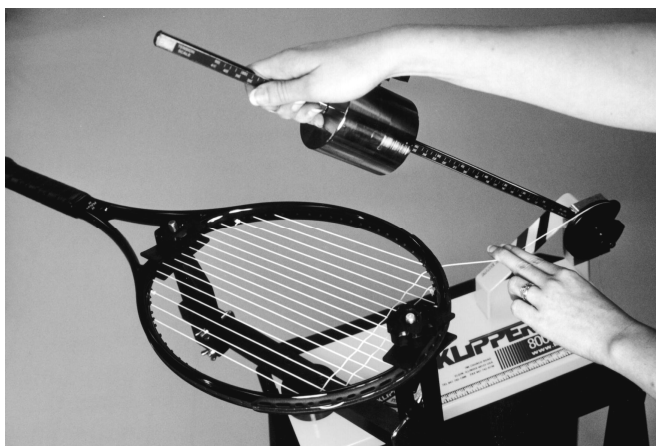


メインストリングを交互に上下にしながら、横切って縫っていきます。

向かい側の対応するホールにストリングを押し出し、ラケットの外側からクロスストリングを引っばります。

注意：メインストリングに対して、こすって摩擦で焼いたり、傷を付けたりしないでください。ラケットを横切るときは、クロスストリングをゆっくりと引っばってください。

テンションをかけてストリングを引っばる前に、2本目のクロスストリングを縫っていきます。次の空のホールに向けて A から D のシンプルステップに従って、ストリングを通していきます。



注意：2本目のクロスストリングの縫い目は、1本目のクロスストリングと交互になっています。

例：左上図のように、1本目のストリングがメインストリングの上側にあれば、対応する2本目のクロスストリングは、同じメインストリングの下側にあります。

3本目からのクロスストリングもこの手順に従って縫っていきます。

最初の2本クロスストリングは同時にテンションをかけます。

注意：2本のクロスストリングを同時にテンションをかけるのはこの時だけです。残りのクロスストリングはそれぞれ1本に1回ずつテンションをかけます。



1本目・二本目のクロスストリングにテンションをかけた後、テンションをかけたまま、「ダブルストリングクランプ」で2本のクロスストリングをクランプしてください。